



いよいよ、各カテゴリーの2019シーズンがスタートしました。1シーズン怪我なく、常にベストのパフォーマンスを発揮して、選手・スタッフ・観客・審判員の全てが納得のいくゲームコントロールを心掛けていきましょう。

3月・4月に行われた研修会のレポートが完成しましたので、参考にしてもらいたいと思います。

#### □2019 年度 U-20 審判員春季研修会

【報告者:室蘭地区審判委員会 三平 富喜雄】

●期日:H31 年 3 月 13 日(水)~17 日(日)

●会場:鹿島ハイツスポーツプラザ

●研修会テーマ

“サッカーの理解を深める”

“リーダーシップを発揮する”

1. 審判員のテーマに寄り添い、

・あなたの夢や目的はなんですか？

・あなたはその幾つかを達成するためにどのような進歩しましたか？

・あなたの夢に達成するために克服しなければならない課題はなんですか？

上記の事柄を、各自で、チャレンジ/振り返り/修正へのコメントしつつ、小さくても良かった事の気づきの賞賛を忘れずにサポートしていきたい。

2. 私自身、スキルのない事、理解力など、すべてにおいてしっかり勉強しなければならないと感じました、JAF インストラクターの方々、地域のインストラクターにはご迷惑をおかけしましたが、みなさん快く私の質問にお答えいただき感謝いたします、特に 4 人部屋での各地域で、お話は、興味深く拝聴させていただきました。

大変多くの引き出しで、ハードの容量が足りませんが、日々忘れないうちに、文書を作成していきたいと思えます。



公益財団法人 日本サッカー協会 2019地域レフェリーアカデミー全体研修会について

・参加期間：2019年3月23日(土)～2019年3月24日(日)、(22日に前泊)

・試合会場：J-GREEN 堺

【報告者：札幌地区サッカー協会 田口 平蔵氏】

【タイムスケジュール】

**【2019年度 地域レフェリーアカデミー全体研修会】**

開催期間：2019年3月23日(土)～24日(日)  
会場/宿泊：J-GREEN堺 DREAM CAMP

	3/22(金)	3/23(土)		3/24(日)	
	全員	Referee	RAM/RAI	GroupA	GroupB
7:00					
7:15					
7:30					
7:45					
8:00		朝食		朝食	
8:15					
8:30					
8:45					
9:00		開講式 <JOHORBAHRU>		Practical TR <人工芝ピッチ>	Session7 講義 競技規則 <JOHORBAHRU>
9:15					
9:30					
9:45		Session1 講義 <JOHORBAHRU>			
10:00					
10:15					
10:30		Session2 講義 <JOHORBAHRU>		Session7 講義 競技規則 <JOHORBAHRU>	Practical TR <人工芝ピッチ>
10:45					
11:00					
11:15					
11:30		Session3 競技規則テスト <JOHORBAHRU>		閉講式 <JOHORBAHRU>	
11:45					
12:00		Session4 講義 <JOHORBAHRU>		解散	
12:15					
12:30				昼食	
12:45					
13:00					
13:15					
13:30		Session5 講義 指導法 <FRANKFURT>			
13:45					
14:00					
14:15					
14:30					
14:45					
15:00				RAM/RAI研修 <FRANKFURT>	
15:15					
15:30					
15:45					
16:00		ゲーム <人工芝ピッチ>		解散	
16:15					
16:30					
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00		夕食			
18:15					
18:30					
18:45					
19:00	各自チェックイン ※食事は各自 ※アパレルを受け取る				
19:15					
19:30					
19:45					
20:00		Session6 講義 レフェリングアナリシス <JOHORBAHRU>			
20:15					
20:30					
20:45					
21:00					
21:15					
21:30					
21:45					
22:00					

【集合研修概要】

<目的／審判員>

- ・良い環境と良い指導でさらなる成長につなげること
- ・他地域 RAC 生と切磋琢磨することで、自らの立ち位置や課題を把握し、さらなる成長につなげること

<目標／審判員>

- ・アカデミー活動の目的を理解すること
- ・自分の目標を明確にすること
- ・仲間意識を持ち積極的に活動すること

## 【開講式】

今回は審判員が総勢32名集まったこともあり、審判員からの自己紹介は省略となったが、各地域のアカデミーマスターとアカデミーインストラクターからの自己紹介と JFA 審判委員会より、小川佳実委員長、レイ・オリバー副委員長、山崎裕彦 RDO、常勤マスターの石山昇氏、黛俊行氏、審判部事務局の真田幸明氏、西尾厚樹氏より紹介があった。

また、JFA 小川委員長より挨拶として JFA 審判員として共有事項が上がった。

①「Vision—目指す姿～審判活動を通じて全ての人の感動とよろこびに貢献する～」、②「Mission—果たすべき使命～誰もが楽しめ信頼し合えるレフェリング～」、③「Values—自立した魅力ある審判員であるために～」という3つの事項を全体に共有してもらい、Potential(可能性)と Values(価値観)を引き出す力が必要だと意識付けをして頂いた。

そして、2019年のテーマは「Realizing Your Potential by Adding Values～価値を加えていくことで潜在能力を発揮する～」を合言葉に、1級審判員になるために模範となる姿勢で周囲をリードし、トレーニングを通じてその価値を伝え、様々な人とのコミュニケーションを図ることで価値を高め、日頃からの準備をしなければならないと、改めてアカデミー生として、自立した魅力ある審判員になるために2年間何をすればいいか考えるきっかけとなった。

さらに、JFA 常勤マスターの石山氏より、レフェリーアカデミーはステップアップの方法を学ぶ場であり、審判員は自分をさらけ出し、サポートをして下さる方たちを信じることに徹するように、と審判員に激励の言葉を送った。

【Session1 —Fast Track を意識した審判員の育成を目指して—】担当: 山崎 RDO

セッションの初めに RAC1期生の活動報告が行われた。アカデミー生の中から1級候補になるまでの流れが説明され、また1期生のアカデミー全体の感想が報告された。感想では、パーソナリティの向上することが出来たことや審判員として重要な試合に割り当ていただいたことや実践した後すぐフィードバック受けることが出来たことなどから、アカデミーの事業の充実性が高いことを理解した。

アカデミーが目指す審判員像としては、25歳までに1級審判員となれる将来性のある若手審判員であり、国際舞台で活躍する審判員を輩出し、そのために1級審判員審査の時には JFL 主審カテゴリーの能力を有する審判員のレベルを求められる。また、審判活動に情熱を持ち、日頃から高い目標を設定して常に意欲的に自己改革を図る人材を求められる。

1級審判員になってから国際審判員になるまで最低10年かかると言われているが私たち20歳前後の若手審判員が一番早くに経験できるかもしれないワールドカップが2034年のワールドカップであるが逆算すると、2027年に AFC Referee Academy に入校し、それまでに国内トップリーグを担当できるようなレベルに達していなければならない。

この話から、審判員に必要な「判定力」、「マネジメント」、「フィジカル」、「パーソナリティ」、「誠実さ」などが挙げられるが、プラスアルファ個人で必要な力を身に付け、それを強みにしなければならないと実感した。アカデミー生としての2年間で自らの強みに気づく力を身に付けたいと思う。

【Session2 Realizing Your Potential by Adding Values～価値観を加えていくことで潜在能力を発揮する～ 担当:レイ・オリバー氏】

This session is all English by Rey. He said, "Can you turn your DREAM into REALITY?" (DREAM means Desire, Reason, End Product, Ambition, and Motivation.) (REALITY means Resource, Education, Attitude, Lifestyle, Influence, Time and YOU!)

And Ray said that we are needed qualities of a Top Referee and Assistant Referee. There are many issues to be leveled up, for example ①Physical, ②Technical Ability/Skills, ③Tactical Football Understanding, ④Motivation to Develop and Improve, ⑤Organization Skills, ⑥JFA Values, ⑦Personal Skills and Qualities, ⑧Mental Skills.

However, apart from the referee, we must carefully consider our family and career of our works. So, it is important to have life balance.

【Session3 競技規則テスト 担当:山崎 RDO】

競技規則テストは個人のスマートフォンでグーグルフォームを使用して実施された。問題は、ビデオクリップを使用してファウルとオフサイドを判定するテストと競技規則の理解度を確認するテストを行った。

【Session4 プロフェッショナルとは 担当:黛俊行氏】

このセッションでは、プロフェッショナルレフェリーとは何か、そもそもプロフェッショナルとは何かを学ぶセッションだった。

そもそもプロフェッショナルとアマチュアでは仕事の評価が違い、評価する「顧客」が仕事に満足して初めて「プロの仕事」になるという。

多くの職業は顧客満足度を高めることが目標であるが、「審判員という職業は顧客満足度100%がありえない(by 小川委員長)」職業であるなか、何故私たちは上級の審判員を目指すのか、私たちが目指す審判員に求められる資質や能力は明確に理解されているのか問いただされた。

審判員は試合中様々な「程度」の中から「選択」し、一瞬で判定を下している。「程度」の背景にあるものとして、「感覚」や「常識」などがあげられるが、それらは人種や性別、地域性、個人などなどで変わってしまうものである。つまり、私たちが判定する際のベースとなる規則やルールは人間の「感覚」、「常識」という「あいまいなもの」でできていることがわかる。だからこそ私たち審判員は競技規則に表記された言葉の意味とその適用の解釈を明確に理解しておく必要がある。

【Session6 ビデオ分析ディスカッション 担当:相葉氏、三宅氏、角山氏】

審判員をグループ化して3つの事象についてディスカッションを行った。1つ目はキーパーと攻撃側競技者との接触のシーンで主審はノーファウルと判断した事象であった。2つ目はペナルティーキックとなる反則についてであった。3つ目は1つの事象に対し、1つのグループがファウルの主張をし、もう一方のグループがノーファウルを主張するような形のディスカッションを行った。1つ目と2つ目の分析に関しては、グループ内で自分の意見に自信をもってディスカッションを進めることが出来た。3つ目の論破し合うような形のディスカッションでは判定に納得してもらえるような言葉選びや立ち振る舞いが必要であると感じた。

【プラティカルトレーニング 担当：川村氏、青木氏、三宅氏、宮部氏、岡田氏、佐藤氏、角山氏、相葉氏】

プラティカルトレーニングでは、「直接フリーキックのマネジメント」と「試合中のペナルティーキックで起こりうる反則」について行った。

直接フリーキックのマネジメントでは、自分に3つの課題が出た。1つ目はフリーキックの再開位置の指示をしたにも関わらず、キッカーに再開位置をずらされてしまったこと、2つ目は声だけでコントロールを使用したこと、3つ目は自分のポジショニングであった。

1つ目の課題に関しては、自分がボールに背を向けて壁のコントロールをしてしまったことが原因でおきてしまったので、体の向きを工夫して改善したいと思う。2つ目の課題に関しては、あまり笛を使わないようにコントロールを心掛けたが最低限笛を使うタイミングを見計らって声と笛両方を用いてコントロールする工夫が必要であった。3つ目の課題であるポジショニングでは、レフェリーサイドのペナルティーエリアの角付近の攻撃側チームの直接フリーキックの際に、ボールと次の争点を予想してバイタルエリア中央付近にポジションをとったが、守備側の壁のマネジメントや選手の背後で起きていることが見えにくいため、競り合いを副審と挟んで見えるポジショニングをとるべきだったと考える。

【Session7 競技規則 担当：青木氏、岡田氏、川村氏】

このセッションでは、競技規則テストで使用したビデオクリップから抜粋された事象と新たに競技規則第12条に附された「ボール、相手競技者または審判員に対して物を投げる、あるいは、持った物をボールに当てる。」事象について審判員とディスカッションを行った。

中でも岡田氏が担当した競技規則の第12条の改正点について、何故この条文が加えられたのか、また、何故この部分を改正する必要があるのか、審判員自ら考えさせるきっかけとなった。

【総括】

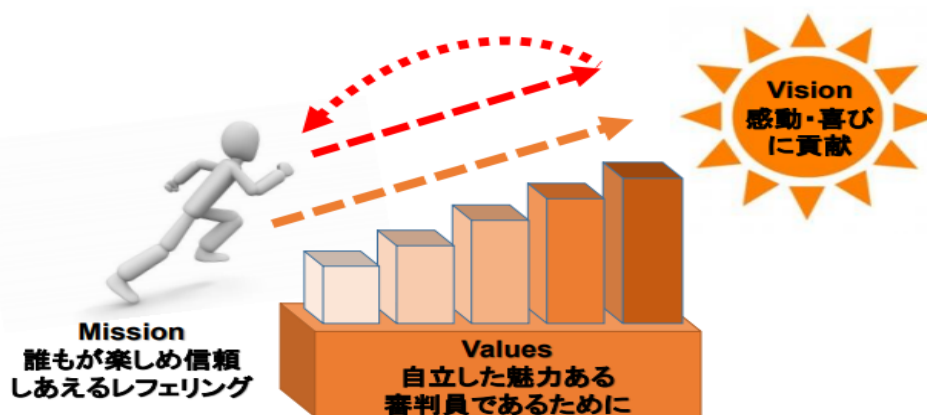
今回、地域レフェリーアカデミー全体研修会に参加させていただいて、短い期間ながらも充実した研修会でした。黛氏のセッションの中で心(頭)の育み方(脳科学)の話があり、レフェリーについてだけではない講義もあり、とても興味を惹かれる内容でした。また、会場でアパレル一式を頂き、ジャージに袖を通した時は、改めてアカデミー生としての自覚を感じ、身が引き締まる思いでした。

北海道所属として、札幌地区所属として、これから2年間のレフェリーアカデミーを充実したものにし、1級審判員に近づけるように日々精進してまいります。



【報告者:函館地区サッカー協会 高橋 海星氏】

日本のトップリーグ担当レフェリーのモチベーションビデオを見た後、JFA 審判委員長の小川氏による、JFA 審判員として何を求められているかについての講義を行った。JFA 審判員に求められているものは、**・Vision-目指す姿・Mission-果たすべき使命・Values-見出す価値観**の3つをバランスよく身に着けること。そして、2019年のテーマとして、「Realizing your potential by adding values」(価値を加えていくことで、潜在能力を発揮していく)を達成するために、模範となる姿で周囲をリードすることや、日ごろから準備を怠らないことが必要だということを知った。



[Session1]

JFA 普及部会レフェリーアカデミー担当の山崎氏より、「Fast track を意識した審判員の育成を目指して」の中で、アカデミー1期生の活動報告、アカデミーの目指す審判像についての講義があった。1期生の感想の中では、「判定面や動きの面など、総合的に大きく成長できたと実感。」や、「審判のことだけでなく、人としても成長をする事が出来た。人間性・積極性の部分でも大きく向上することができ、仕事の面でも活用できている。」などの感想があった一方で、「研修内容が薄かった」や、「地域のアカデミー生の立ち位置が不明」などの不満も見られた。また、アカデミーの目指す審判像として、「25歳までに1級審判員となれる将来性のある若手審判員であり、国際舞台で活躍する審判員を輩出します。そのために、1級審判員審査の時にはJFL主審カテゴリーの能力を有する審判員のレベルを求めます。審判活動に情熱を持ち、日頃から高い目標を設定して常に意欲的に自己改革を図る人材を求めます。」とあり、2期生がワールドカップに行くためには、遅くとも2029年までには国際主審になる必要があるということ。そのための指導体制として、各地域1名配置されたアカデミーマスターを中心に複数のアカデミーインストラクターの元、**・少数・密着・継続、外部講師の講義などの指導**が必要であるということを知った。

[Session2]

JFA 審判副委員長の Ray Oliver 氏より、「Realizing your potential by adding values」の中で、トップレフェリーになるにあたって必要なものについての講義があった。グループ内で必要な要素を話し合い、全体に発表した。トップレフェリーに必要な要素として、1.Physical 2.Technical Ability/Skills 3.Tactical Football Understanding 4. Motivation to Develop and Improve 5. Organization Skills 6.JFA Values 7. Personal Skills and Qualities 8. Mental Skills の 8 個があるということ。また、この講義は全て英語で行われたため、英語力の改善も必要であると強く感じた。

[Session3]

自分の携帯を使って、競技規則テストをした。映像を見て判定する問題と、書かれた自称を見て答える問題があった。

[Session4]

JFA インストラクターの黛氏より、「プロフェッショナルとは？」についての講義があった。プロフェッショナルとアマチュアの違いは、顧客の満足度に違いがあること、求められる質が違うことなどを挙げ、Ray 氏のトップレフェリーに求められる 8 個の要素とつながることを確認した。審判員が判定するにあたって、以下のような過程がある。

### 審判員が判定するという事とは・・・

判定される過程は、『程度』が含まれたルール上において、これまで学んで来たこと、経験など**全てのことを総動員**して、皆さんの『程度』で判定しているといえるのではないかな。

つまり、様々な『程度』の中から『選択』し、**一瞬で**判定を下している。

『程度』の背景にあるものとは？

「感覚」、「常識」、「良識」など

人種、性別、国際性、自国のもの、地域性、家族(家庭)、個人等々で変わる

つまり、規則やルールは、人間の「感覚」、「常識」、「良識」という『あいまいなもの』でできている。

**だからこそ競技規則に表記された言葉の意味とその適用の解釈を明確に理解して置かなくてはならない**

[ゲーム]

アカデミー生で 3 チーム作り、レクリエーションゲームした。

[Session6]

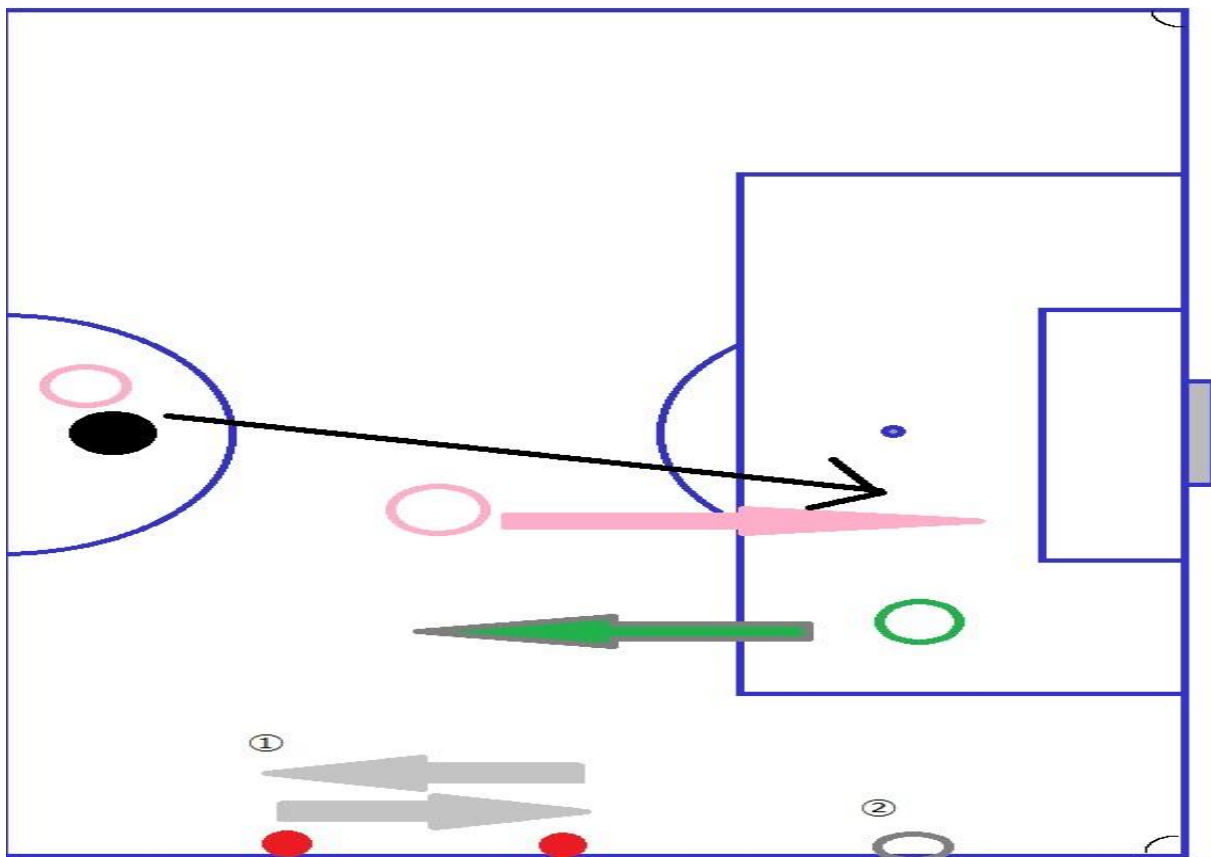
アカデミー生が 2 つに分かれ、映像を見てファウルなのか？ノーファウルなのか？カードの有無は？を判断する講義を行った。判定をする際、程度を判断するための考慮事項(コンシダレーションポイント)ゴールとの距離、ディフェンダーの位置と数、プレーの方向などの決定的な状況なのかをいつ把握するのかなどをグループで話し合い発表した。

[Session7]

競技規則についての講義で、主審と副審の協力、PK 時に起こる違反とマネジメント、FK の再開場所について学んだ。特に PK 時の違反を防ぎ、不必要なカードを出さないようなマネジメントとして、**ボールの静止→キッカーの特定 (Identify)→GK への声掛け→その他のプレイヤーへの声掛け→レフェリーのポジショニング→笛で再開の 6 ステップ (BIGPP)** が大切であると学んだ。

[プラクティカルトレーニング]

副審の動きとオフサイドの判定、主審と副審の協力の 2 つを行った。副審の動きとオフサイドの判定では、①で副審がサイドステップをし、②でオフサイドラインにつき、オフENSとディフェンスが入れ替わる瞬間にパスが出るので、オフサイドかどうかの判定をするというものであった。最終ラインを監視するだけでは、いつボールが蹴られたのかがわからなかったり、出し手だけを監視すると最終ラインが監視できなかったりと難しいため、いつどのタイミングで何を監視するのかを整理する必要があると感じた。



主審と副審の協力では、副審側でファウルが起きる設定で行った。主審の位置、角度を確認してファウルサポートをするのかしないのかを決める。Wait & See をうまく活用する、自分が主審だったらサポートが欲しい場面なのかを考え、サポートする必要があると感じた。



## □2019 年度(公財)北海道サッカー協会強化指定審判員研修会

●日 時 2019 年 4 月 13 日(土)

●場 所 帯広市帯広の森陸上競技場、  
帯広の森アイスアリーナ研修室

### 【報告者:旭川地区サッカー協会 森内 真司氏 報告】

2019 年度の強化指定審判員研修会は陸上競技場でのインターバル走からスタートしました。75m のランと 15 秒と 25m のウォーク 18 秒を 1 セットに計 40 本行いました。15 名の参加者のうち3名の脱落者が出たことは残念でありません。



アイスアリーナ研修室に場所を移し、「1 級審判員の抱える課題と今後の認定制度に係る変更点」や「ファウル程度の見極め方」、「北海道トップレフェリーとして判定のすり合わせ」について座学方式で講義を受けました。

特に講義では、西村 1 級審判員の講演が印象に残りました。「程度の見極め方」と題し、競技者の意図やコンタクトの激しさ、チャレンジのスピード・タイミング・危険性を3段階で判断する方法は、普段のレフェリングで抽象的だったファウルの程度の見極め方が具体化されました。

私たち強化指定審判員は「地域トップレフェリー」としての自覚をもち、審判活動はもとより、人間としても地域に認めてもらえるように成長していかなければならないと決意しました。

### 【報告者:空知地区サッカー協会 大川 宗憲氏】

#### 1. 研修

伊藤氏より1級試験の今後、強化審判員として話がありました。

まず、「理想の強化審判員とは？」というテーマでグループに分かれディスカッションを行いました。私は、選手が安心して判定を審判に任せられて、プレーに集中できるように試合を運営していくことが理想の審判員と思っています。ディスカッションの中でも『信頼』、『人間性』という言葉を用いて、他の強化審判員も同じ意見を共有することができました。

古曾部氏に講師が代わり、①マネジメント ②判定 ③動き の図解で表すと？

マネジメント ⇔ 判定 ⇔ 動き

正しい判定を下すために事象の近くや展開を予測して動き、そして正しい判定を下すために選手へのマネジメントを行うという意味で私は上のような図解となった。その中で強化審判員の靱山氏の図解が他の視点からのアプローチと考え方が素晴らしく関心をしてしまいました。競技規則の知識のみならず、様々な知識を勉強することで物事を違った視点から考えることができるので、競技規則以外の勉強も大事になってくると思いました。

次に3つのシーンの映像を用いて①競技者の意図 ②コンタクトの激しさ ③チャレンジのスピード ④チャレンジのタイミング ⑤ チャレンジの危険性 それぞれに点数を付けて、さらにその点数をもとに不用意、無謀、過剰なのかを判定した。試合中は映像のように何回も見ることができないので、どのシーンも5つのポイントの点数を瞬時に決定することがとても難しかった。初見で見た時の判断と映像を繰り返し

見た時の判断が異なり点数が変わってしまうことがあり、そのギャップをこれから埋めていかなければならないと感じました。競技規則の則り5つのポイントを参考にこれからの試合に役立てたいと思います。

最後に伊藤氏より、2019年の強化の目標・追及が発表された。『根拠ある判定を目指して』判定に対して選手に説明して納得してもらうように、この1年間こだわってやってほしいと説明があった。

## 2. 研修の感想・今後の抱負

強化審判員として初めての強化研修を終えて、自分の課題や目標を明確にすることができました。これからのシーズンに入るにあたりさらにトレーニングに励みたいと思います。また、根拠ある判定を目指して、選手の行動や意図を十分に把握して判定に対して納得してもらい合理点を見つけられるよう、こだわって活動をしていきたいと思います。

最後に、審判活動ができるのもたくさんの人々の支えがあって成り立っています。その感謝を忘れずにこれからの強化審判員として、北海道のトップレフェリーとしての自覚をもって活動していきたいと思います。

**【報告者：室蘭地区サッカー協会 志村 奎祐氏】**

### 【感想】

今回初めて強化の体カテストを走って自分の体力の少なさに気づきました。どのくらいの速さで走るのかもわからなかったなので、先輩方に合わせて慣れていくようにしました。



### 【講義内容】

#### ・強化審判員として

どういうあるべきなのか、何を期待されているのかをみんなで話し合った

#### ・1級審査について

現在と今後でどう審査が変わるのかを説明受けた

#### ・映像を確認し、5項目を使って判定

競技者の意図、激しさ、スピード、タイミング、危険性を考慮して懲戒罰を決める

### 【感想】

今回の講義で、強化審判員として何が必要なのか、どういう存在なのかというのを1から皆さんに教わりました。映像をみて5項目使って判定したときは、あれは意図があったのか、激しさがあったかどうかなど、簡単でわかりやすく今後取り入れて意識してみようと思いました。